保育者養成校における、リトミック授業の実践について

―子育てサロンを活用して―

中村　寛子

On the Practice of Eurthythmics Class at Nursery Teacher Training School.

―Utilizing the Child Rearing Salon―

Hiroko Nakamura

Abstruct

It is very difficult to develop Rythmique lessons at nursing school,because student do not understand the theory music very well.However, Rythmique is very effective at the childcare sites. Education is enhanced with voice and students can certainly learn by all means at kindergardens and nursery schools. I have studied how to teach classes utilizing and practicing Rythmique in the local child rearing salon.

Keyword:Rythmique class,nursing school,child rearing salon

1. 序論

幼児教育の現場でリトミック教育の重要性が叫ばれるようになって久しい。リトミックはスイスのE.ジャック＝ダルクローズ（1856～1958）によって創始された。『リトミックは3つの主要な目的を目指している。音楽的感覚を完全に身体組織のうちに発達させること。運動の本能をすべて呼び起こした後に、秩序と均衡の感覚を創造すること。そして想像力を発達させること』*「作曲家・リトミック創始者　エミール・ジャック＝ダルクローズ」代表著者フランク・マルタン（1977）全音楽譜出版　328p より*　という理論である。難しい理論であるが、要するに、体に内在するリズム感を覚醒するばかりか、感性や表現力、ひいては知性まで育成できるという理論である。メディアでも、頭が良くなる習い事にリトミックが1位にランキングされた。幼児の両親が飛びつかないわけがない。リトミックさえすれば、頭が良くて、スポーツ万能の子ができる、と、リトミック教室は大はやりである。リトミックに特化した園にして、入園者数を増やそうとする園が、増加している。この流れを受けて、保育者養成校は、なんとかリトミックを学校教育の中に入れられ

ないか、検討しているところは多い。しかし、二つの大きな問題にぶつかる。一つは、どの教育機関も、時間がないことである。文科省や学校側が定めたカリキュラムに則って教育していくと、学生は長期休暇もとれず、実習に追われている。もう一つは、時間がない中でやっとピアノを習得しているような学生に、リトミックの専門的な勉強は難しいということである。リトミックは用語が独特で、音楽を専門としている者でも苦労するところである。増して、短大や専門学校に入って初めてピアノを始めた人間にリトミック教育を施しても、理解不能であることは、火を見るより明らかである。筆者は、約 20 年間専門学校の保育科で非常勤講師として教鞭をとっている。この論文は、その学生たちに、どうやってリトミック教育を施し、どのように理解させ、実践できるようにしていくか、を研究したものである。

2. 集中講義による、リトミックの授業

①授業内容

よくある授業がそうであるように、まず、集中講義により、リトミック講義を展開してみた。二日間、8 時間の集中講義のうち、講義 2 時間により、概念や理論の講義をする。次にいくつかのグループ分けをし、子ども役、保護者役を決める。1 歳児向けレッスン、2 歳児向けレッスン、3 歳児向けレッスンを筆者が実施する。もちろんその次には、同じメンバーで模擬レッスンをしてもらうことを言っておく。

模擬レッスンでは先生役、子ども役、保護者役を決め、指導案を作り、レッスンを実施してもらう。先生役は当然ピアノを弾きながらレッスンを展開するので、ピアノが達者な学生ということになる。

時間	授業内容		詳細
1	講義	リトミックとは？概念と理論	ダルクローズについて、リトミックが生まれた背景、リトミックの骨子
2	講義	サブジェクトとテーマについて	リトミックの概念、リトミックの授業内容
3	実習	リトミックレッスン体験	講師によるリトミックレッスンの実習（1 歳児向け）学生は保護者役と 1 歳児の役。
4	実習	リトミックレッスン体験	講師によるリトミックレッスンの実習（2 歳児向け）2 歳児のレッスン
5	実習	リトミックレッスン体験	講師によるリトミックレッスンの実習＝　3 歳児のレッスン
6	実習	リトミックレッスン実習	リトミックレッスンの模擬実習。グループ全員で指導案を立て、講師

			役、子供役、保護者役を決め模擬レッスンをする。2 歳児のレッスン
7	実習	リトミックレッスン実習	リトミックレッスンの模擬実習。グループ全員で指導案を立て、講師役、子供役、保護者役を決め模擬レッスンをする。3 歳児のレッスン
8	講義	まとめ 実習の反省とアンケート	もう一度リトミックの概念と骨子を復習する。アンケートは学生の理解度を図るため

②実施後の反省点

今回カリキュラムの関係で、専門学校の 1 年生、しかも夏休みにしか実施できなかったのが大変悔やまれた。音楽の専門用語もまだよくわからず、ピアノも良く弾けない学生達には、難しい内容だったと思われる。リトミックは、保育経験者か、幼児のピアノ指導経験者には、とても響く内容であるが、学習途中の学生にはわかりづらい。リトミックの専門用語に至っては、理解できないでいた。それでも、体験と称した授業では、子ども役、保護者役は（講師が先生役を務めて受け身ということもあり）楽しくやっていた。その次の段階の、グループ全員で指導案を立て、保護者役、生徒役、講師役を考える時は、当然ながら考え始めてすぐに行き詰まり、なかなか先に進めないでいた。

③集中講義によるリトミック学習の結論

講義と演習を両方取り入れられ、集中して学習させられたことは、大変効果があると思われたが、学生がこの授業を通じて、リトミックを理解できたとは思えない。大きな問題は、この授業を通じて、指導者として自立させるのか、ただの経験として済ませるか、をはっきりさせることである。指導者として自立させるのであれば、実施学年は 1 年ではなく、最終学年であるべきであろう。経験としてのリトミックの授業であれば、1 年生に実施しても良いのではなかろうか。ただ、子供の成長を知った後、それぞれの年齢（1 歳児、2 歳児、3 歳児）にできることが何なのか、どのような成長をしているのかを理解できるのを待つ方が良いと思われる。また、音楽の学習に関しても、1 年ではできることが少なく、ピアノ・音楽・サブジェクトという学習が難しすぎたことである。学生のアンケートには一様に「楽しかった」と書いてあるだけであった。

④集中講義によるリトミック授業のまとめ

リトミックの教育を施す上で、次の点に注意して行うべきであると結論付ける。

1、経験としてのリトミックなのか、指導緒者養成のためのリトミックであるのか、はっきりさせる。

2、リトミックに特化した幼稚園、保育園に興味がある学生の選択授業とすることが最善の方法であると思われる。

３、一般向けリトミックのレッスン（実際に子どもを対象としたリトミック）を見学することを授業の中に１時間でも入れると、より理解しやすくなる。

しかし、これではリトミックの授業は保育者養成校ではできない、という結論になりかねない。そこで、筆者は、もっと効果的な授業展開ができないか、工夫を加えてみることとした。

⑤更なるリトミック授業への工夫

以前、小学のゲストティーチャ―制度が盛んに導入される時期があった。筆者も 20 校以上のゲストティチャーを依頼され、音楽の指導や、学芸会、発表会の指導に奔走した経験を持つ。その時に、特別支援学級の音楽の授業を依頼された。専門学校の許可を取り、毎授業に５～６人の専門学校生を同行させ、音楽の授業を試みた。手遊び歌、音楽ゲーム、歌唱等を行ったが、学生がこんなに生き生きとした表情をするのか、と驚いたことがあった。しかも、子供たちまでが、いつもより生き生きしているのである。それどころか学生が来るのを楽しみにしてくれるようになり、運動会や学芸会に招待してくれたり、遠足まで同行させてもらったり、大変良い経験をさせてもらった。そこで、学生に指導案を立てさせ、授業をしてもらうこととした。音楽の授業といっても、まず、ご挨拶の歌、音楽ゲーム、椅子取りゲーム、終わりの歌等（ピアノは学生が担当する）といった感じであったが、狙いは見事に的中、ピアノの授業では全くやる気のない学生たちが、子ども達に良いところを見せたいとばかりに、ピアノの練習を頑張るようになった。今まで、大きな声で歌わないと、子ども達に届かないよ、と注意しても、「やるときはやる、今はその時ではない」と屁理屈を言っていた学生が、「先生が言っていた意味がよくわかった」といって、大きな声で歌うようになった。この経験を、リトミックの授業に生かしていけないか？と考えた。子供を前にしたとき、学生たちは、職業意識も芽生え、真に必要なものが見えてくる。子ども達も、頑張っている若者から得られることも多いはずである。講義だけではなく、このような実習ができる授業はないものか。探すことした。

また、筆者は公民館や保健センターで何度も演奏を依頼され、子供向けのワークショップや地域の元気なご老人向けの演奏会を行った時に、公民館主事と何度も話をした。以前は公民館というのは建物を地域住民に貸し出す所、必要であれば、地域住民のために講師を雇って、サークル活動を実施するところであったが、時代とともに変わってきている、という話を思い出した。この話をもとにして、公民館で学生を交えてリトミックをできないか。考察することとした。

3、授業の工夫

①筆者が携わっている専門学校では、殆どの学生が座学を苦手としている。実技（ピアノ、体育、調理実習等）は生き生きとしているのに、講義では理解できない、それどころか、最初から授業を聞いていない学生が多い。文章を読み解く力が低下していたり、文字

を書く能力が低下したりしているのは、日本の教育の大きな問題であろう。そこで、何とか演習または、簡単な実習をできないか。また、講義と実習（演習）を交互にすれば、講義の内容を実習として直結させられる。そのようなやり方はできないか？
②模擬レッスンという形もあるが、出来るだけ対象となる幼児、保護者に接することができないか。「学生に早いうちから職業意識を持たせること」は大事な課題である。保育者養成校の学生のうち半分は職業意識がないまま学校に来ている。「他に行くところが考えつかなかったから」というのが学生の言い分である。ひどい学生になると「幼稚園時代が楽しかったから」という理由で保育者養成校に来ている。早く現場を体験させ、保育の重要性や責任の重さを感じさせたい。
③リトミックのみならず、保育の現場で音楽は重要である。感性を育むこと、表現力を育むこと、リズム感を育むこと、どれも生きていくうえで大変重要な要素である。しかして保育の現場では音楽を多用しているのだが、学生には伝わりにくい。なぜ音楽なのか、なぜピアノなのか、わからないまま、苦手なピアノに悪戦苦闘している。音楽を使った生の教育を学生に見せることはできないか。
④保育者養成校は各地にあるが、地域に貢献することはできないか？せっかく沢山の学生が地域を通って学校に通っているのに、また、その近辺に保育園、幼稚園、小学校等あるのに、こどもや保護者との交流はほとんどない。何らかの交流があれば、お互いにとって良い関係ができるのではないか？学校のそばを通るとき、お互いが挨拶したり、会話をしたりすることはできないか？お互いの行事にお手伝いに参加することはできないか？
以上のことを考察して、子育てサロンを活用することを考えた。

4. 子ども、子育て新支援法

現代日本において、少子化問題は深刻さを増している。人口減少は留まることがない。総務省統計局によれば、平成 30 年 9 月 1 日現在の人口は 1 億 2462 万人である。これは、前年同月の人口に比べ 40 万 1 千人の減少であり、 - 0.32%である。そればかりでなく、高齢者が増加し、出生率が低下している。「子どもや子育てをめぐる環境は厳しく、核家族や地域のつながりの希薄化により、子育てに不安や孤立感を覚える家庭も少なくない。また、保育所に子どもを預けたいと考えていても、希望する保育所が満員である等から多くの待機児童が生じていることや、仕事と子育てを両立できる環境の整備が必ずしも十分でないこと等が問題となっており、そうした状況を前に、子供がほしいという希望をかなえられない人も多い」（内閣府、2018）この子供と子育てをめぐる大きな社会環境の変化と問題の多様化、複雑化の対応策として、政府は平成 27 年より「子ども、子育て新支援法」をスタートさせる。その中の第 59 条「地域こども、子育て支援事業」②地域子育て支援拠点事業（乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場を提供し、子育てについての相談、助言その他の援助を行う事業）がある。実施主体は市町村、基本事業は①子育て親

子の交流の場の提供と交流の促進②子育て等に関する相談・援助の実施③地域の子育て関連情報の提供④子育て及び子育て支援に関する講習等の実施、とある。この実施形態に「地域の子育て力を高める取り組みの実施（拠点施設における中・高校生や大学生等ボランティアの日常的な受け入れ・養成の実施）が明記されている。筆者はこれを活用し、この場に学生を参入させることをできないか、計画してみた。福岡市では、公民館と社会福祉協議会が連携して、毎週1回「子育てサロン」を展開している所が多いようである。筆者が教鞭をとっている専門学校の近隣の東住吉公民館に足を運び、拙稿の前項にある、地域との連携を兼ねた、学生の授業展開を提案してみたところ、快諾していただいた。むしろ、子供、子育て新支援法に合致する、素晴らしい取り組みである、と評価していただいた。このようにして、実現にこぎつけたのである。

5、子育てサロンでの実習

実習初年度に当たる平成30年度は、入念な打ち合わせと反省会、引継ぎ等を行うこととし月に一度の実習を行うこととした。教師も学生も初めての試みであること、子供達には大切な時間であること等を考えて、60分の時間枠の中で、はじめ30分は筆者によるリトミック（学生がアシスタント）後半30分は学生による実習とした。学生の準備、引継ぎ、反省会等には専門学校の担任が必ず入り、指導していただくことになった。学生は15名1クラスであるため、4名ないし5名1グループとし、担当月に実習していく方法をとった。1年間の授業で、1グループは2回、又は3回の担当が回ってくる。1回目は、講師（筆者）がリトミック、学生が制作と担当を分けた。2回目には、講師（筆者）のリトミックを半分学生に担当させる。制作物も必ず制作ではなく、その季節に合った遊びや行事を取り入れていくこととする。3回目にはリトミックも学生が担当できるように指導していければ、この授業は成功といえよう。

月	テーマ	前半（リトミック）講師	後半（制作）学生	準備
3月	動物園に行こう	・絵本歌い聞かせ（♪よくきたね）ライアを使って ・自己紹介（ライアをさわってみよう） ・音楽に合わせて体を動かそう（♪一歩進んで） ・動物園に歩いていこう（サブジェクト/四分音符、即時反応、等速感、ビート、高	・動物を作ろう（学生による制作指導）ふくらませた風船（ピンク、白、黄色）に1つづつ、目のシール、鼻のシールをセットにして	・絵本「よくきたね」 ・ライヤ ・ピアノ ・タンバリン（30個） ・風船各10個（ピンク、白、黄色）（目をセット

		低、ダイナミクス） ・楽器体験（タンバリン、	配る。（パンダ、うさぎ、ひよこになる。	として付ける） ・ハサミ ・油性ペン（口を描くため） ・持ち帰り用ビニール袋 ・ゴミ袋

3 月実施分反省点

実施：3 月 19 日（月曜日）11:00～12:00

参加者：親子 26 組

講師反省点：①初回ということもあり、講師（筆者）もかなり緊張してしまった。参加者が多く、広いサロンが狭く感じてしまったほどだった。「みんなで散歩に行こう、歩きますよ！」という言葉がけをしたものの、歩く場所がなく、その場で足踏み、という状態だった。②リトミックからの学生の制作の方へ引き継ぐときの流れが途切れる。テーマは同じだが、参加している親子にしてみれば、別のことをやっているように感じたかもしれない。もっと流れ良くやるべく、終わってからの振り返り授業で、もう一度流れを検討してみた。

学生反省点：①声掛けが慣れていず、声が小さく、また、説明的であったため、もっと楽しい雰囲気を作るように言葉がけをするべきであった。②体調が悪い学生が、体調が悪いのを前面に出していた。無理をしてでも笑顔を作るのがプロではないか、と議論になった。成長のために良い議論であったと思う。③リトミックでは傍観者になってしまっていた。率先して大きな声で歌ったり、歩いたりするべきだった、という声が出ていた。

5 月	鳥を作ろう	・絵本歌い聞かせ（♪ウマウマ列車）ライヤをつかって ・自己紹介（ライヤを触ってみよう ・お散歩に行こう（サブジェクト/即時反応、高低、四分音符、8 分音符、強弱、ビート、長調、短調） ・お花畑についたよ（♪お花が笑った）小さいシフォンのスカーフでお花を作る⇒お花が咲いたよ ・短調⇒長調（小さいスカー	・鳥を作ろう画用紙に子どもの手形をつけて、羽を作る。 ・〇画用紙を半分に折って、羽をつける。 ・嘴、目を作る	・〇画用紙（鳥の胴体用） ・白画用紙（子どもの手形用） ・ペン ・ハサミ ・嘴用黒画用紙 ・マジック（鳥の目を描く） ・持ち帰り用ビニール袋 ・ゴミ袋

		フを作って[いないいないバー]をする） ・パネルシアター「ネコのお医者さん」 ・参加者が作った鳥を使って小鳥の歌を歌う。		

5 月実施分反省点

実施日：5 月 14 日 11:00〜12:00

参加者：親子 15 組

講師反省点：①ライヤを使った自己紹介は、子供にも親にもとても評判が良かった。②サロンに乳児用に手作りのカーペット（布）が敷いてあるのだが、子供達が走ったり、飛んだりするのに危険だと感じた。③乳時の保護者が「立ちましょう」の声掛けにあまり反応せず、立たない。学生から、お膝の上に子どもをのせて、歩くように足を動かしてもらったら、という、とても良いアドバイスをもらった。④項目をこなすことに追われ、子供や保護者の顔をゆっくり見ていなかったことを猛省。⑤全体のテーマを通して、最後にもうひとひねりあった方が、充実感があるような気がした。

学生反省点：①子どもの手形で鳥の羽を作るアイディアについて保護者は「記念になる」と喜んでいた。②制作の準備はきめが細かく、微に入り細に入り準備してあるので、楽しく制作できたようであった。手形を押すのは、絵具ではなく、スタンプ台を使った方がよい、ということに気づいたようだった。また、絵具は手に塗った後、口に入れて大丈夫なものかの確認が抜けていた、という意見が出た。③声が小さい、声掛けが説明的なのはなかなか越えられない壁のようなものか。コミュニケーションをとるのもなかなか苦手そうであった。

6 月実施分				
6 月	カエルで遊ぼう	・絵本歌い聞かせ（♪ぴよーん）ライヤを使ってピョーンを表現する ・学生が自己紹介をする（自分が作った制作物を見せる） ・子供達もライヤを触って自己紹介 ・出かけよう（サブジェクト/四分音符、八分音符、強弱、高低、緩急、明暗（長短）、	・ギロを作ろう（紙カップを使って）紙コップの底に穴をあける。 ・ぎざぎざの入ったストローをさす ・ストローの先にカエルの顔をつける	・紙コップ ・ストロー ・葉っぱ（学生が作成したもの） ・色ペン ・持ち帰り用ビニール袋

		・大きなシフォンのスカーフで「蛍がでたよ、蛍を捕まえよう～♪蛍」 ・パネルシアター「素敵な帽子屋さん」（カエルの帽子を作成する） ・最後にみんなでカエルの歌をうたう（ギロも演奏する）	・紙コップに葉っぱをつける ・ギロの演奏をしてみる	

6 月実施分反省点

実施日：6 月 11 日 11:00～12:00

参加者：親子 9 組

講師反省点:①専門学校の担任講師がパネルシアターをやって見せてくれた。子供への言葉がけ、目線の配り方等、学生には大変勉強になった。また、子供達も大喜びだった②雨がひどい日で、参加者が少なかったが、子どもの顔をゆっくり見ることができ、保護者とも話ができるようになった。③パネルシアターを加えたことで、変化があり、参加している親子はとても楽しそうであった。パネルシアターには必ず、みんなで歌う歌をつけて、参加型の物を組み込むように工夫した。

学生反省点：①ギロの制作にあたって、もっと楽しそうに演奏する姿を見せるべきであった。②ギロとピアノと歌を使って、最後に楽しい合奏を沢山すべきであった。その際、カエルの遊びを取り入れられなかったか?制作中心になっていなかったか？

8 月実施分				
8 月	花火を見に行こう	・絵本歌い聞かせ（♪ペンギン体操） ・ペンギンにご挨拶して自己紹介 ・車に乗って花火を見に行こう（ハンドルはタンバリン） ・サブジェクト/四分音符、即時反応、八分音符、強弱、高低、長短、緩急） ・花火を見に行こう（♪花火の音楽） ・パネルシアター「花火」	・ビニール袋に、折り紙、ストロー、モールを入れて、50 枚用意する ・透明のビニール袋の下書きに沿って、色を付けていく。年齢が低くて、色を塗れない子は、シールを用意して、貼らせてい	・絵本「ペンギン体操」 ・ペンギンのぬいぐるみ ・タンバリン 20 個 ・ストロー ・モール ・輪ゴム ・ビニール袋（花火の下絵が書いてある）色を塗りやすいように、上を

			く ・ビニール袋に入った折り紙を小さく契る ・ビニール袋を膨らませて、ゴムで口を縛る ・みんなで花火の歌を歌いながら、ビニール袋をポーンと上げる	入れておく ・色油性ペン ・色とりどりの折り紙 ・

8 月分反省点

実施日：8 月 20 日 11:00～12:00

参加者：親子 15 組

講師反省点：①専門学校担任と筆者共同の完全オリジナルな参加型パネルシアター、紙皿シアターを創作して、披露した。歌ってもらいながら、お話を進める内容に工夫した。②学生は講師陣が作った歌付きパネルシアターに感激していた。参加親子もとても楽しんでみてくれたと実感した。③保護者から「うちの子の発達が遅いように思うんですが」と相談を受けた。それだけ、この行事が定着してきた内容となったこと、信頼を得てきたことに感動した。

学生反省点：①説明が長く、半分以上の人は聞いていなかった。②やはり、制作に集中しており、リトミックまで気が回らないことが多かった。

6、子育てサロンでの実習の反省点

・筆者は音楽の一講師であるため、担任の上村仁美先生の力なくしては、実現しなかった。学生の制作物の指導、親子への目の配り方の指導、声掛けの指導、どれ一つとっても、筆者だけでは授業として成立しなかった。特に学生の制作物への細かい配慮は素晴らしく、筆者には考え付かない指導が多々あった。筆者も今回のこの授業で学ぶべきものが多く、上村先生から沢山学ばせていただいた。この経験を必ず次につなげたいと思う。

・現時点で学生は一巡しただけで、この論文を書いているところである。2 巡目は、リトミックを少しずつ学生にやってもらうことにしている。この授業の大変に良いところは、講師が子供達や保護者にリトミックをやっている所、声掛けしている所、目配りしている所、工夫している所等を実際に見れることである。2 巡目は、学生にとっては緊張し、苦

労する時間であるが、大変良い経験となって力をつけてくれることとなると信じている。また、保育園、幼稚園に実習に行っている2年生を対象にした授業であるため、学生は子どもの発達をよくわかっているし、普段の実習で経験する保育とリトミックの違いを感じ取って、「リトミックとはなんであるか」がより理解できている。2巡目が大変楽しみである。2巡目では、学生が担当したリトミックをビデオ撮影し、もう一度講義の中で見たり、同じ内容を講師がやって見せるなどして、より良い形をすぐに模索する授業を実践したいと思う。この授業の大変良いところは、実習と講義が一体化している所である。講義だけの授業では、学生は講義で学習した何をどの場面で生かしていったらよいのか、全くつながっていないのである。就職して、2〜3年たったころに、講義の重要さがわかれば、良い方かもしれない。しかし、現代の保育士不足から見ると、卒業生は即戦力であり、すぐにでも担任を持ち、子どもの命も成長もすべて預かることになる。せめて実のある授業を展開していくことは、保育者養成校の責務であろう。

このリトミックを展開するようになって、専門学校の前を通る親子と学生が挨拶をしたり、言葉を交わしたりするようになった。地域連携型の授業の展開がうまくいっている例といえよう。

今後2巡目、3巡目の授業が進み、学生に力がついていくことは今後の課題としていきたいと思う。

引用文献

・フランク・マルタン、チボル・デヌス、アルフレッド・ベルヒトルド、アンリ・ガニュパン、ベルナール・レイシェル、クレル＝デュトワ＝カルリエ、エドモン・スタドレ「作曲家・リトミック創始者　エミール・ジャック＝ダルクローズ」昭和52年7月　全音楽譜出版社　328P

参考文献

１）エミール・ジャック＝ダルクローズ「リズムと音楽と教育」全音楽譜出版社　平成15年2月

２）エミール・ジャック＝ダルクローズ「音楽と人間」開成出版　平成23年2月

２）内閣府「新たな子育て支援制度の検討の背景、第2節「子ども・子育て新制度」の概要」平成27年4月

３）社会教育法第22条「公民館の事業」

４）総務省「国勢調査」及び「人口推計」平成25年

５）内閣府「子ども・子育て新支援法」Ⅷ．地域子ども・子育て支援事業　平成27年4月